

○未定

内務省仙臺土木出張所

笠原 宏氏

○移植民政策と人口問題

北海道大農学部

上原 徹三郎氏

○國土計畫と厚生施設の配置に就いて

東北帝大法文学部

服部 英太郎氏

○無醫村有醫村と人口移動率に就いて

岩手縣科専門學校

根本 四郎氏

○職業と人口問題

山形縣師範學校

長井 政太郎氏

○農村人口收容力と農業經營形態——特に東北地方の問題として——

京都帝大農学部

大槻 正男氏

○山村に於ける人口置換現象

岩手縣黑澤尻中學校

山口 彌一郎氏

○農業勞働力調査を通じて見たる東北農村社會の模様(中間報告)

積雪地方農村經濟調査所

小池 保氏

○福島市近郊農村に於ける勞働力

福島高等商業學校

中村 常次郎氏

○都市配置との關聯に於て見たる奥羽地方人口供給力に關する若干の考察

人口問題研究所

館上 正 稔氏  
田 嘉 彰氏

○東北地方に於ける所得と人口

早川 三代 治氏

一、懇談協議 參會者懇談の形式にて協議をなす。

一、參加資格並に方法 參加者は左に該當するものと所定の中込書に依る(會費不要)。

(イ) 東北地方各大學高專關係職員。

(ロ) 東北地方各官廳關係者にして知事の推薦したるもの。

(ハ) 東北地方關係團體職員にして本會に於て適當と認めたるもの。

(ニ) 東北地方特殊研究者にして本會に於て適當と認めたるもの。

(ホ) 本會々員  
(ヘ) 其の他本會に於て推薦したるもの。

一、參考事項

1 人口問題東北地方協議會事務所を東北帝國大學法文學部經濟研究室内に設く。

2 本協議會に關する照會等はすべて右事務所宛にされたきこと。

3 本協議會に關する記録は之を取纏めの上報告書を作成する豫定。

一、公開講演會 尙協議會終了後、仙臺、盛岡(六月七日夜)、山形、青森(六月八日夜)の各地に於て人口問題講演會を開催す。

### 財團法人厚生科學研究會の第一回總會の開催

#### 總會の開催

財團法人厚生科學研究會の第一回總會は昭和十六年四月八、九兩日に互り東京市芝區厚生科學研究所に於て開催せられたが、同總會に際し發表された研究報告の題名及び報告者名を掲ぐれば以下の如くで、本人口問題研究所よりも西野、青木、横田、笠間、梅澤の五名出席所掲の如き報告を行ふところあつた。

### 厚生科學研究會第一回總會研究報告

第一部會 事變下國民疾病災害豫防並に作業能力増進に關する問題

鉛中毒の早期診斷に就いて

湯淺蓄電池保健部

原田 福象

チヂン法による鉛の定量法

川崎 近太郎

或る鉛作業と其の從業員の健康状態

厚生科學研究所 産業衛生部

赤塚 京次

弗素と蝕蝕發生に就ての一考察

東京齒科醫專衛生細菌學教室

木村 肇

邦製化學療法劑の效力に關する實驗的研究の總括

東京齒科醫專衛生學教室

米澤 和一

體力に關する研究(第二報)

日本鋼管豫防醫學研究所

籠山 京

國民體力検査の成績に就いて

廣瀬 茂一

産業部門より觀たる國民體力法實施と結核の追求(第一報)

立川飛行株式會社附屬病院

内村 野村 政長

事變下工場從業員の脚氣に關する調査

立川飛行株式會社附屬病院

内村 野村 政長

事變下工場從業員の脚氣に關する調査

立川飛行株式會社附屬病院

内村 野村 政長

事變下工場從業員の脚氣に關する調査

立川飛行株式會社附屬病院

内村 野村 政長

事變下工場從業員の脚氣に關する調査

厚生科學研究所環境衛生部

松岡 溝田 修吉

國民體力検査に依り發見せられたる無自覺性肺結核に就て

日立製作所日立病院(醫學士) 森田澄一  
佐藤靜雄

工業従業員の脚氣豫備状態症狀群に及ぼすビタミンB<sub>1</sub>の影響に就て

別子住友病院 西山村 嵩泰

工場青年學校生徒の體力検査成績

厚生科學研究所 坂清水 鈴木幸夫  
環境衛生部 山口正 岡修信 石部弘之 松岡信尚 白岡信尚 山口正 中山錦一

日立製作所礦石工場醫務課 厚生省労働局 川崎近太郎 末永泉 三浦よし江

尿中ビタミンB<sub>1</sub>の簡易定量法

川崎近太郎 末永泉 三浦よし江

國民栄養の郷土性、季節性

慶大醫學部 大森憲太

硫酸アルミニウムの反應機轉に關する實驗的考察(第一報)

東京市衛生試驗所 相澤金吾

國字の生理・心理學的研究(第一報)

厚生科學研究所 近藤忠雄 辻正三

縣下産業界に於ける保健衛生施設の現況と將來の諸問題(二題の中)

神奈川県廳労働政課 神奈川県産業報告會 東京醫專 栗原操

農業労働者の循環機能に關する研究

日本鋼管豫防醫學研究所 湯淺謹而 杉田秀雄

大陸原住労働者の體勢の特異性とその適性に就いて

大隈科學院 白井伊三郎

作業の持續と休憩に關する心理學的一考察

厚生科學研究所 辻正三

都市幼兒の身體發育に關する研究

人口問題研究所 梅澤菊枝

イオン化空氣浴竝にカルシウム劑(ホフミン)の小學校兒童凍傷に及ぼす影響(抄録)

北大醫學部衛生學教室 須藤推三 佐藤久 吉田惠

我教室過去一年に於ける空氣イオン缺乏環境の健康に及ぼす影響に就ての研究

北大醫學部衛生學教室 木村正一

高溫度環境下労働に關する調査

厚生科學研究所 石川知夫 鈴木武之 田多吉之 佐藤正義 山口正義

假防毒室の衛生學的調査

東京市衛生試驗所 石原房雄

第二部會 民族優生竝に開拓衛生に關する問題

東京齒科醫專 赤阪東九郎 衛生細菌學教室 赤阪隆

雙生兒兎唇竝に口蓋破裂の遺傳的觀察

東京齒科醫專 赤阪東九郎 衛生細菌學教室 赤阪隆

遺傳的疑義を有する兎唇竝に口蓋破裂の十一例について

東京齒科醫專 赤阪東九郎 衛生細菌學教室 赤阪隆

多産夫婦の兩親及び子供の出生力

人口問題研究所 横田年

埼玉縣一農村に於ける家系調査

人口問題研究所 横田年

千葉、埼玉兩縣の精神疾患の頻度と血族結婚

厚生省豫防局 青木延春 人口問題研究所

滿洲開拓農村に於ける婚姻竝に出生力に關する研究

人口問題研究所 笠間尙武

東京市に於ける地域別出生力の相違に就いて

厚生科學研究所 候扶桑

トラコーマの集團治療に對する山崎氏結膜擦過法の意義に就いて

恩賜財團濟生會芝 三枝正文 病院眼科 山崎順

近視の遺傳に關する研究

厚生科學研究所 川上理二 葉山英一

滿洲開拓農村の人口構成に就いて

人口問題研究所 西野陸夫

體勢發育の民族的差異とその生活環境による可變性に就いて

白井伊三郎

北滿開拓地に於ける生活環境に就いて

白井伊三郎

北滿に於ける日滿農民の食物

安部淺吉

北滿開拓地に於ける二、三の醫學的考察

栗原操

蒙古の水

栗原操

大陸の住宅建築に就いて

平山嵩

擔當區域學童の反應成績

兵頭通方

都市學童の結核に對する集團檢診成績

東京市特別衛生地區  
保健館學校衛生部

宮崎 肇

昭和十五年年度結核檢診の統計的觀察

名古屋市牧野保健所

前田 健次

ツベルクリン反應判定方法に就いて

野邊地慶三

柳澤 健

益子義教

染谷四郎

栃内 寛

寺木 忠

臼井竹次郎

辻 達彦

與謝野 光

大林容二

須賀井忠男

諏訪紀夫

金光正次

野上鐵雄

佐々木秀興

林 春雄

甲野禮作

森 勇雄

都市産業従業員結核に關する二三の考察(三年間連續  
施行せる集團健診成績)

東京市特別衛生地區  
保健館社會衛生部

井上 信夫

保健所に於て實施せる喀痰中の結核菌培養に就いて

北多摩保健所 廣瀬 正見

都市住民間に於ける結核蔓延狀況に就いて

都市保健館 (奥) 野田 藤二郎  
大阪府富田保健所 今 きぬ

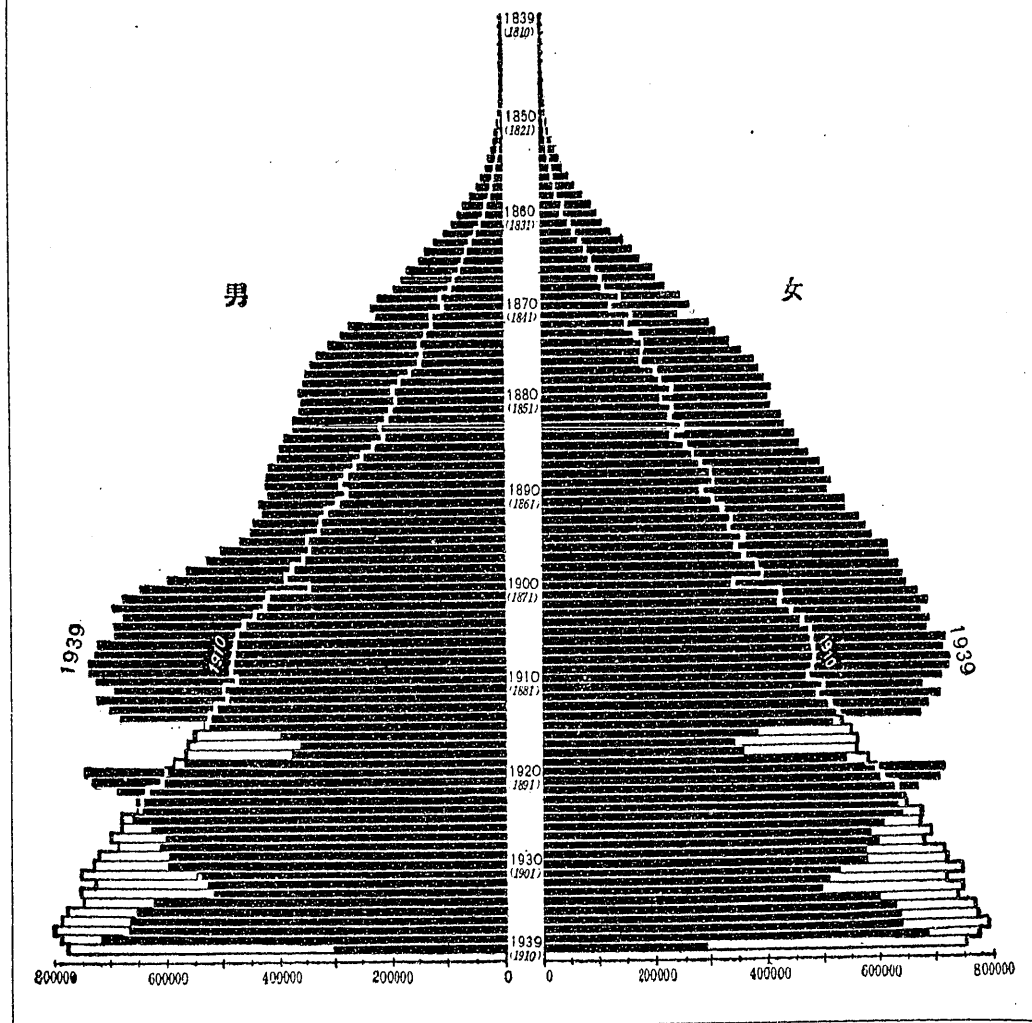
石工の肺檢診の所見に就いて

岡田 貫一  
高野 忠孝  
廣瀬 正見  
新井 英夫

獨逸人口の年齢別構成圖

(一九三九年及一九一〇年國勢調査に依る)

中央數字は 1939 年(括弧内は 1910 年)年齢構成圖に於ける出生年を示す



都市保健館のヂフテリア豫防事業に就いて

東京市特別衛生  
地区保健防疫部 内田勇四郎

福岡縣下の國民體力向上修練會の成果に就いて

那須 完

保健所出張所の概況

大阪府富田林保健所 原 玄洋

東京市衛生試験所の最近業績

石原房雄

特別講演

國民生活に關する二、三の科學的見解 陣 峻義 等  
 閣議決定を見たる人口政策解説 古屋 芳雄  
 北滿開拓と醫學 坂口 康藏

一九三九年獨逸國勢調査細目集計の

發表(二)

全國人口の年齢構成

一九三九年五月一七日施行の國勢調査(メーメル地方、グ  
 土及びオイペン、マル)結果による獨逸人口の年齢構成の概  
 要は別掲圖表の如くで、之に就き獨逸統計局の説明す  
 る所の大意を再録すれば次の如くである。  
 前大戰以前に於ては出生率は勿論低下して來てみた  
 が猶ほそう甚しくなく、反之、七〇年代以降の死亡率  
 の不斷の低下は各出生年度毎に死亡による消耗を少く  
 して行つたので其の年齢構成は規則的なピラミット型  
 を示してゐる。が前大戰の勃發と共にこの規則正しい  
 發展が完全に中斷されたことは別掲圖表中の二十乃至

二十四歳(一九一五乃至一九二九年出生)の處に大きな喰込  
 みがあることで一目瞭然としてゐる。即ち前大戰時の  
 出生脱落の結果で、同じく前大戰の影響は四十乃至六  
 十歳(一八七九乃至一九九九年出生)の男子が女子に比して  
 低分布を示してゐる點にも窺へる。とはいへ前大戰に  
 よるこの種影響も大戰後に表はれる出生著減に較べて  
 は猶ほ輕いとも稱すべきで、一九二〇乃至三二年度に  
 大戰中の滞留出産の取りもどしにより多少の出生率の  
 上昇が認められるのを除いては三三乃至三九年度まで  
 殆んど規則的に出生数の減退の跡を示してゐる。たゞ  
 ナチス政變後にこの退勢は逆轉されたが、とはいへ猶  
 ほ前大戰前の程度を回復し得ざること圖表に見るが如  
 くで、一言にして要約すれば前大戰に於ける出生停止  
 とその後の出生減退による攪亂を境として再び正常な  
 新しいピラミッド型年齢構成の基礎構造が初まつてゐ  
 るといふことができよう。

尙一九一〇年以降の國調結果により舊領域々内に  
 於ける年齢構成變化の跡を百分率を以て示せば次の如  
 くである。

總 數 (三八年首現在領域内)		
一九二〇、三、一	一四、六、七四	一、八、三二八
一九二五、六、一六(1)	一五、〇、六五	一、八、六三六
一九三〇、六、一六(2)	一五、三、六四	一、九、一七〇
一九三九、五、七	一五、〇、六五	一、八、九〇七
百 分 比 (同左)		
一九二〇、三、一	三九	四九
一九二五、六、一六(1)	三九	五七
一九三〇、六、一六(2)	三三	七〇

一九二〇、五、七

三七

七〇五

七八

- (1) ザール地方は一九二七年七月一九日
- (2) ザール地方は一九三五年六月二五日

都鄙別の人口構成

人口構成が都市と農村との別により著しい差異を  
 示してゐるのは農村の高出生力と並に農村人口の向都  
 離村の結果當然で農村地方は二十歳未満の人口に豊富  
 だが二十歳から二十五歳未満人口に於ては特に弱勢  
 で、之は兵役義務によりその多くが中小都市へ移駐す  
 る結果である。農村人口の向都離村は二十五乃至六十  
 五歳人口層の比較的弱勢を結果してゐるが、反之、六  
 十五歳以上になると又平均率を超過してゐる。都市人  
 口の人口構成は之と正反對の關係にあるわけで、その  
 數字を掲ぐれば次の如くである。

年 齡	全 國			農 村	市 及 中 小 市 市	農 村 都 市 中 大 都 市
	(一九三九年中期)	(一九二〇)	(一九二五)			
六 未 滿	九・八	一一・四	九・九	九・九	七・九	七・九
六—一四	一一・七	一四・四	一一・七	一一・七	八・九	八・九
一四—一六	三・三	四・〇	三・三	三・三	二・四	二・四
一六—一八	三・五	三・九	三・六	三・六	二・九	二・九
一八—二〇	三・六	三・八	三・八	三・八	三・二	三・二
二〇—二五	五・六	四・四	六・五	六・五	五・五	五・五
二五—三〇	八・九	八・二	九・二	九・二	九・三	九・三
三〇—三五	九・〇	八・二	九・〇	九・〇	九・八	九・八
三五—四〇	八・四	七・八	八・四	八・四	九・二	九・二
四〇—四五	七・一	六・四	七・〇	七・〇	八・一	八・一
四五—五〇	六・一	五・四	五・九	五・九	七・二	七・二